

◇ ◇ 第二種研究会開催案内 ◇ ◇

●第 54 回機能集積情報システム研究会

委員長 北神正人（千葉大）

期日 平成 26 年 6 月 6 日（金）

会場 秋田市にぎわい交流館研修室 2（秋田市中通 1-4-1. <http://www.akita-nigiwai-au.jp/>）

本研究会は、ディペンダブルコンピューティング研究専門委員会の下での第二種研究会として開催します。本研究会は、平成 3 年に設置された「ウェーハスケール集積システム時限研究専門委員会」以降、複数の時限研究専門委員会の下での研究会を経て現在の研究会に引き継がれました。

近年の LSI 製造技術の進歩により、大規模かつ斬新な情報処理機能をシリコン・ウェーハあるいは大規模 IC チップ上に集積・実装する情報システム FIIS（Functional Integrated Information System）の構築技術が注目されています。そこで、本研究会では次に示す幅広い研究分野を対象としています。

まず、IC チップ製造段階では、チップの歩留まり解析、歩留まり向上設計法、レイアウト解析、フォールト・トレラント手法などが挙げられます。また、IC チップ上の情報システム構築（SOC: System On Chip）技術としては、IC 内部の欠陥検出法（テスト手法や BIST: Build In Self Test）や誤り訂正・回復技術、故障を許容する高並列プロセッサや相互結合網の再構成方式、耐故障再構成可能情報システムの構築技術、動的再構成可能情報システムの構築技術、低消費電力技術などが挙げられます。更には、故障モデルの解析、信頼度解析、性能評価などの理論的解析手法も挙げられます。

本機能集積情報システム（FIIS）研究会は、上述したような技術を、応用分野の枠を超えた高性能・高信頼性・低消費電力のマイクロ情報システム実現のための強固な枠組みであると捉えています。本研究会では上記内容を中心としていますが、それらにとらわれず、各種応用研究を含めた広い研究分野からの研究発表を歓迎致します。

今回の第 54 回機能集積情報システム研究会は、秋田市にぎわい交流館にて開催致します。皆様奮って御参加下さい。  
プログラム

1. テスト圧縮を考えた微小遅延故障検出率向上法 ○張 文坡・難波一輝・伊藤秀男（千葉大）
2. リアルタイムロボットビジョンのための顕著性マップの並列実装  
○白井啓吾・間所洋和・高橋 聡・佐藤和人（秋田県立大）
3. 極限作業ロボットの基本設計と制御の検討 ○渡辺歩未・下井信浩・間所洋和（秋田県立大）
4. 多元 LDPC 符号とシンボルレベル同期アルゴリズムを用いた挿入／削除／反転誤り訂正法  
○島村智彦・金子晴彦（東工大）
5. セグメント分割伝送線を用いた損失配線のシグナルインテグリティ改善 ○島田弘基・安永守利（筑波大）
6. スモールワールド指向プロセッサのアーキテクチャ ○森 秀樹・上原 稔・松本勝慶（東洋大）

◎最新の情報は Web ページ（<http://kaneko-www.cs.titech.ac.jp/fiis/>）を御覧下さい。

◎研究会終了後に懇親会を予定しております。御参加を希望される方は、下記問合先まで御連絡下さい。

参加資格 特に制限はありません。

参加費 1,000 円（会場でお支払い下さい。学生は無料です）

【問合先】

難波一輝（千葉大大学院融合科学研究科）

E-mail: [namba@faculty.chiba-u.jp](mailto:namba@faculty.chiba-u.jp)

主催 ディペンダブルコンピューティング研究専門委員会

●第 5 回安全・安心な生活のための情報通信システム（ICSSSL）研究会

委員長 岡田和則（NICT）

副委員長 田村 裕（中大）・中野敬介（新潟大）

私たちの日常生活は、大地震、豪雨、竜巻等の自然災害から、交通事故や誘拐等児童への犯罪まで、様々な脅威にさらされています。これらの被害を避ける、軽減する、更には、大規模災害時の復興や地域再生のために、情報通信システムが果たせる役割は大きいと考えられます。当研究会では、真に役立つ情報通信システムの実現のため、これらの情報通信技術の研究開発だけでなく、災害時に求められる情報の在り方などの社会科学分野などとの学際的な検討を目指しています。

第 5 回研究会は、2011 年 3 月の東日本大震災の被災地であり、その経験から、災害に関する研究拠点として、東北大学災害科学国際研究所、東北大学電気通信研究機構、情報通信研究機構耐災害 ICT 研究センターの三つが整備され

た東北大学にて下記のとおり開催致します。御興味のある皆様の御参加をお待ちしております。また、懇親会を12日(木)の夕方に企画しておりますので、奮って御参加下さい。

日時 平成26年6月12日(木) 11:00~18:20

13日(金) 10:00~11:40

会場 東北大学青葉山キャンパス総合研究棟(仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-11。仙台駅前西口バスプール9番乗り場から[工学部経由動物公園循環],[宮教大],[青葉台],[成田山]行きのいずれかに乗車,[工学部中央]で下車(約20分)。バス停から歩いて3分。<http://www.eng.tohoku.ac.jp/map/?menu=campus&area=c&build=e10>)

## プログラム

### 12日午前

1. 地表設置型合成開口レーダ(GB-SAR)による地滑りモニタリングと栗原市との情報共有の実践  
○佐藤源之・高橋一徳・鄒立龍(東北大)
2. 災害状況を遠隔地から把握するセンサーネットワークのための災害に柔軟に対応する通信インフラシステムの研究  
開発 ○鈴木彦文・アサノデービッド(信州大)・二川雅登(静岡大)・澤田和明(豊橋技科大)・小松満・竹下祐二(岡山大)・不破泰(信州大)

### 12日午後

3. 道路管制システムにおける効率的なシステム切替えについて  
○北舘慎・山内海・太田和宏・臼井智徳(ネクスコ東日本)
4. 緊急時と平常時のリスク判断と安全判断の認知プロセスの違い—時間制限法を用いた認知心理学的検討—  
野内類(東北大)
5. 駐車場における電気自動車の充電サービスとその評価 ○宮北和之・中野敬介(新潟大)
6. 石巻市中心市街地における「防災行政無線の聞こえ方」調査  
○佐藤翔輔(東北大)・中川政治(みらいサポート石巻)・岩崎雅宏(サーベイリサーチセンター)
7. 自律移動型無線基地局によるマルチホップネットワーク構築の検証—電波強度均等化に着目した展開アルゴリズム—  
○服部聖彦(NICT)・建部尚紀(電通大)・加川敏規・浜口清(NICT)
8. アドホックネットワークのルーティングにおける端末の位置情報の有効性  
荒幡和則・○新井宏典・田村裕(中大)
9. 既存のWi-Fi通信基盤を活用した災害に強い通信システム—重層的通信ネットワークの発展—  
○安達文幸(東北大)・大森慎吾(YRP国際連携研)
10. [特別講演] シミュレーション・リモートセンシング・ソーシャルセンシングの融合による津波被災地の広域被害把握  
越村俊一(東北大)
11. [特別講演] 屋外拡声システム災害情報伝達エリア設計技術の実現を目指して(仮題)  
鈴木陽一(東北大)

### 13日午前

1. 災害対応ロボット技術の実災害への適用と運用にむけた課題 ○竹内栄二郎・大野和則・田所諭(東北大)
2. 通話時間短縮行動の誘発を目的とした災害時輻輳制御法の検討 ○佐藤大輔・高野裕治・持田岳美(NTT)
3. 診療情報バックアップと標準保存形式 中山雅晴(東北大)
4. 災害前後を意識した避難所情報管理システムの設計と開発—新潟県37市町村の実態と東日本の事例を比較して—  
○花角惇・井ノ口宗成(新潟大)

## 【参加申込】

氏名、連絡先、懇親会参加の有無を、下記申込先へ6月2日(月)までに、お申し込み下さい。

参加費：一般2,000円、学生1,000円(資料代含む)、特別講演の聴講のみは無料

懇親会参加費：一般3,000円、学生1,000円

## 【申込先・問合せ先】

井ノ口宗成(新潟大)

TEL [025] 262-6115, FAX [025] 262-7050

[inoguchi@gs.niigata-u.ac.jp](mailto:inoguchi@gs.niigata-u.ac.jp)

川上博(NTTドコモ)

TEL [046] 840-3870, FAX [046] 840-3781

[kawakamih@nttdocomo.co.jp](mailto:kawakamih@nttdocomo.co.jp)

主催 安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会

後援 東北大学災害科学国際研究所、東北大学電気通信研究機構、情報通信研究機構耐災害ICT研究センター

協賛 IEEE Circuits and Systems Society Japan Chapter、日本シミュレーション学会多次元移動通信網研究専門委員会

●次世代ナノ技術に関する時限研究専門委員会主催研究会

材料デバイスサマーミーティング「ナノ・マイクロ加工技術のバイオ・医療応用最前線」

委員長 小森和弘（産総研）

日時 平成 26 年 6 月 20 日（金） 14：00～17：25

会場 機械振興会館地下 3 階 1 号室（港区芝公園 3-5-8. 東京メトロ日比谷線：神谷町駅下車徒歩 10 分，JR：浜松町駅下車徒歩 20 分，都営地下鉄三田線：御成門駅・大江戸線：赤羽橋駅下車徒歩 10 分. [http://www.jcmanet.or.jp/gaiyo/map\\_kaikan.htm](http://www.jcmanet.or.jp/gaiyo/map_kaikan.htm) TEL {03} 3434-8211)

概要

MEMS デバイスを製造するためのナノ・マイクロ加工技術は、バイオや医療分野での技術革新を創出しています。最近のトピックスや研究の動向を紹介します。

プログラム（題名仮）

1. MEMS 技術と応用分野 坂田 稔（ST マイクロエレクトロニクス）
2. バイオ MEMS 技術を利用した生体分子計測への応用 荒川貴博（東京医科歯科大）
3. MEMS 技術の OCT 装置及び内視鏡への応用展開 諫本圭史（サンテック）
4. 分散自立型センサーによる安全・安心・健康社会の実現 金 範竣（東大）

参加費 一般 3,000 円，学生 1,000 円（資料代含む. 当日会場にてお支払い下さい.）

申込方法 氏名，連絡先（会社あるいは学校名，所属，郵便番号，所在地，電話番号），領収書の有無を明記の上，E-mail または FAX で下記問合せ先までお送り下さい。もしくは，ホームページを御覧下さい。申し込み後，当委員より御連絡を差し上げます。

申込締切 6 月 13 日

◎研究会終了後 17：40～，交流会を予定しております。（参加費 4,000 円，準備の都合上，事前の参加登録をお願いします）

【問合せ先】

日暮栄治（東大大学院工学系研究科精密工学専攻）

FAX {03} 5841-6485

E-mail：eiji@su.t.u-tokyo.ac.jp

主催 次世代ナノ技術に関する時限研究専門委員会

◎<http://www.ieice.org/~nnn/index.html> “次世代ナノ技術” で検索

●アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ（再開催第 20 回）—プリントアンテナの基礎と設計—

実行委員会委員長 鈴木康夫（東京農工大）

ワークショップの内容

アンテナ・伝播研究専門委員会では，関連する研究専門委員会と連携して，1994 年度から第二種研究会として標記のワークショップを開催してきました。これは，アンテナ・伝播研究者及び技術者を主たる対象に，設計・解析の実力向上を図ることを目的とするもので，これまで 46 回のワークショップを実施し好評を頂いています。また，再開催の御要望にお応えするために，アンテナ・伝播研究専門委員会では，IEEE AP-S Japan Chapter，電子情報通信学会九州支部などと共催で再開催を行っており，これまで 19 回の再開催を実施致しました。

今回は第 20 回として「プリントアンテナの基礎と設計」をテーマとします。本講義では，プリントアンテナの基本構成，平面型伝送線路，給電方式を総括し，実際の設計手順を追いながら，パッチアンテナ及びプリントダイポールアンテナの基本設計，そのアレー化技術について習得することを目的とします。

本ワークショップはアンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ（第 44 回）「プリントアンテナの基礎と設計」と同一内容となります。

期日 平成 26 年 7 月 3 日（木）

会場 東京工業大学田町キャンパスキャンパス・イノベーションセンター国際会議室（港区芝浦 3-3-6. JR 山手線／京浜東北線：田町駅下車，徒歩 1 分. <http://www.titech.ac.jp/about/campus/t.html>)

講師 山本 学（北大）

講義内容 以下の項目に沿って講義を進めます。

- (1) アンテナ特性量の基礎
- (2) プリントアンテナの基礎
- (3) プリントアンテナの基本設計
- (4) アレー化技術の基礎

※テキストは受講者に約 3 週間前に配布され，予習して頂くことを前提としています。

受講定員 80名

受講料 一般/会員：15,000円，非会員：25,000円

学生（大学院生も含む）/会員：5,000円，非会員：10,000円

(1) 会員とは，電子情報通信学会または IEEE AP-S の会員を指します。

(2) 申し込み受け付け後，事務局から受講受付番号と受講料振り込み案内をお送りしますので，それに従って受講料をお支払い下さい。

受講申込期間：4月1日（火）～6月10日（火）

※先着順；定員になり次第，締め切ります。

受講申込方法 以下のウェブサイトよりお申し込み下さい

<http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/index.php?ws/wsr20>

**【問合せ先】**

アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ再開第20回実行委員会

総務担当幹事 石井 望（新潟大）

E-mail：ap\_ac-wsr20secretary@mail.ieice.org

主催 アンテナ・伝播研究専門委員会

協賛 IEEE AP-S Japan Chapter